

2018年9月

プレスリリース

原爆の火の下、被爆者らが核とヒバクを伝える

**「YES PEACE! 伝えたい核とヒバクシャ」**

告知・取材のお願い

NPO法人世界ヒバクシャ展 安在尚人

080-3558-3369 hibakushaten@gmail.com

前略

世界中のヒバクシャの写真による写真展を国内外で開催してきたNPO法人世界ヒバクシャ展は、来月9日、「YES PEACE! 伝えたい核とヒバクシャ」を東京都内で開催します。

被爆者の高齢化によって、被爆体験を次世代にどう引き継いでいくかが大きな課題となっています。核実験などによる世界的な核被害の広がりについても、その記憶は薄れつつあります。

写真で世界のヒバクシャや核汚染の現場を伝える世界ヒバクシャ展の役割もより大きくなっていますが、これらの写真を、核の問題に関心が薄い人々、特に若い世代にも見てもらうために、様々な工夫が必要だと感じています。

そんな思いから、私たちは、戦後70周年の2015年から、それぞれの平和を親しみやすく表現しようという、YES PEACE! プロジェクトに取り組んできました。今年春のアースデイ東京では、YES PEACE! をキャッチフレーズに、SDGs ハッピーアースパレードも実施しました。様々なグループ・個人のコラボレーションが新たな広がりを生みつつあります。

その一環としての今回の企画は、世界ヒバクシャ展の6人の写真家の一人で、世界で最も核の現場をよく知るフォトジャーナリストの一人である豊崎博光さんの半生記と、この夏の猛暑の中、広島市の被爆した場所などを訪ねて、証言映像を撮影してきた89歳の被爆者、服部道子さんの被爆体験記、そして、世界のヒバクシャや核汚染の現場を伝える世界ヒバクシャ展の写真により、核とヒバクシャの歴史を、多角的、立体的に伝えることを目指しています。

今回のイベントのステージには、広島市の原爆の残り火が掲げられます。最初原爆の火の下で、被爆者の服部さんが体験を語り、シンガーソングライターのしらいみちよさんが、亡くなった世界中のヒバクシャへの鎮魂の思いを込めて歌います。また、服部さんの広島での証言は、VRカメラでも撮影をしてきました。このVR映像は、会場のロビーで見ってもらう予定です。

世界の核とヒバクシャに関する様々なストーリー。人々の記憶から消えつつある出来事の貴重な証言を、次の世代へと引き継ぐために、今できることを、この機会に共に考えたいと思います。

ぜひ、告知・当日の取材をお願いいたします。

草々

## ■YES PEACE！伝えたい核とヒバクシャ

9月9日（日）13時～17時30分 開場 12時30分

めぐろパーシモンホール 小ホール

東急東横線・都立大学駅より徒歩7分 東京都目黒区八雲1丁目1-1

プログラム

### ◆講演1 フォトジャーナリスト・豊崎博光 「atomic age—核の歴史を記録する」

世界ヒバクシャ展の6人の写真家の一人で、核実験場、ウラン鉱山、原発事故現場など、核被害の現場を世界で最もよく知るフォトジャーナリストの一人である豊崎さんが、核とヒバクシャの歴史を語ります。

### ◆講演2 被爆者・服部道子 「はっちゃんはどうしても伝えたいこと」

紙芝居や、この夏、炎天下の広島で撮影した証言映像を交え、89歳の被爆者・服部道子さんが見習い看護師として体験したあの日の広島を語ります。

### ◆YES PEACE! コンサート シンガーソングライター・しらいみちよ

今年、アースデイ東京でのSDGs ハッピーアースパレードに合わせてしらいさんが作ってくれた歌「YES PEACE!」は、子どもたちにも人気です。

### ◆交流会 終了後～19時ごろ、会場ロビーで

### ◆世界ヒバクシャ展 10時30分～21時 ロビー

6人の日本人写真家が撮影した、原爆、核実験、原発事故、劣化ウラン弾、ウラン鉱山などが生み出した世界中のヒバクシャや核汚染の現場の写真を展示。

※開場前（12時20分まで）とコンサート終了後は、無料でご覧になれます。

◇**原爆の火** 福岡県八女市星野村で灯し続けられている広島の原爆の残り火を、火を知ってもらうことを通じた平和活動に取り組んでいるユナイテッド・アースと、火を使ったピースキャンドルなどを行っているBE-INの協力によって、今回のステージに掲げることができるようになりました。原爆の火によって、原爆の悲惨さを実感してもらい、平和への思いを共にしたいと思います。

原爆の火についての詳細は、<https://goo.gl/oCKvbV> をご覧ください。

◇**VR映像** 服部道子さんの広島での証言のVR映像の一部をロビーでVR映像用のゴーグルを使って見てもらいます。この関係の話を、世界ヒバクシャ展facebookのトップにある「今年の広島、長崎で、始めたこと・始まったこと～2020年に向けて」で紹介していますので、ご覧ください。

**参加費** 当日 2200円（学生1700円） 前売 2000円（学生1500円）

※いずれもYES PEACE! CD付き。

新たに 前売・学生 800円（CDなし）を設けました。

※チケットは、世界ヒバクシャ展フェイスブックのイベント情報から購入できます。

電話でも受け付けています。080-3558-3369（安在）

**主催** YES PEACE! プロジェクト（NPO法人世界ヒバクシャ展）

hibakushaten@gmail.com 080-3558-3369（安在）

**協賛** 地球環境蘇生化実践協会



## ゲストに関するエピソードなど

### 【豊崎博光さんについて】

◎世界の核の現場を誰よりも良く知るフォトジャーナリスト

世界の核の現場を誰よりも知る、この分野の第一人者の一人、フォトジャーナリストの豊崎博光さんは、どうして世界中のヒバクシャの写真を撮るようになったのか？

今回講演してもらおう豊崎博光さんにお会いして、今までの半生をいろいろお聞きしました。

マーシャル諸島での取材で、放射能汚染  
チェックを受ける豊崎博光さん=1978年

写真雑誌「ライフ」のある特集がきっかけになって写真の道に目覚めた話から、アメリカ先住民の土地のウラン鉱山や核実験が行われたマーシャル諸島に導かれるようにして訪れた話など、とても興味深い話でした。

豊崎さんは今、これまで取材した内容をテーマごとにまとめる作業に取り組んでいます。その一つとして、アメリカでの核実験の被曝者への補償が、日本の被爆者への補償に比べて、はるかに合理的で民主主義的な、与野党議員主導によるプロセスを経て行われてきた話も聞きました。日本の非合理的な政治や行政の対応にやるせなさを感じる一方、アメリカの民主主義の光の部分をうらやましくも感じました。

今回のイベントでは、こうした核とヒバクシャ取材の半生記を中心に話してもらおうと思います

**豊崎博光** 1948年 神奈川県生まれ。フォトジャーナリスト。78年、アメリカの核実験の被害を受けたマーシャル諸島の人々の取材を始めたことをきっかけに、アメリカ、太平洋の島々、オーストラリア、カナダ、旧ソ連、ドイツなどのウラン鉱石の採掘と精錬、原発の運転と原発事故、核実験、核廃棄物処理などによるヒバクシャを取材。95年、第一回平和・協同ジャーナリスト基金賞を「アトミック・エイジ」で受賞。2005年、「マーシャル諸島 核の世紀」で日本ジャーナリスト会議賞を受賞。

## 【服部道子さんの活動紹介】

### ◎見習い看護師としての壮絶な被爆体験を、各地で語り続ける89歳

忍者、服部半蔵の子孫である服部道子さんは、女学校卒業後、広島市内の軍医部で働き始め、採用わずか2ヵ月で、原爆に遭遇。三日三晩、飲まず、食わずの、壮絶な救護活動を体験しました。父親は7ヵ月後に原爆病で亡くなり、家族は皆、病に冒され、苦難苦労の連続でした。服部さん自身も度重なる病気を乗り越え、89歳の今も、各地で精力的な講演活動を続けています。



2010年夏に行われた「平和のための埼玉の戦争展」で、紙芝居を披露していた小学校教員の菅田哲さん（37）に、自分のことも紙芝居にしてほしいと依頼。哲さんとパートナーの元教員、菅田

紗央里さん（30）が紙芝居を作り、完成後は、服部さんは、児童館や中学校高校での証言活動の際の導入として、菅田さんたちは、児童・生徒たちに伝えるために活用してきました。

**卒業した小学校を訪れ、級友の写真を掲げながら当時の様子を語る服部道子さん＝広島市立皆実小学校で**

こうした活動を通じて、支援し続けて来た菅田さんたちを、服部さんは、自らの後継者と位置付けて期待しており、この夏には、平和祈念式典に合わせて共に広島を訪れ、炎天下、被爆した場所などを訪れて、証言映像を撮影して来ました。

服部さんは、自らの体験を分かりやすく伝えることに常に心を砕いてきました。

今回の「YES PEACE! 伝えたい 核とヒバクシャ」での講演では、服部さん、菅田紗央里さんがモンペ姿で紙芝居を演じた後、この映像を流しては、服部さんが説明をするという形で、体験を語ってもらうことで、より実感を持って原爆がもたらした現実を感じてもらいます。

**服部道子** 埼玉県在住。16歳の時、看護の仕事を始めたばかりの軍医部で被爆し、死の淵の人々を必死で看病した。戦後すぐに、広島を離れて、青森県、宮城県、福島県、東京都などで厳しい生活を送った。病魔にも何度も襲われたが、被爆体験を後世の人に伝えようと、50代から始めた語り部の活動は30年を超える。2013年3月から「非核特使」として約4ヵ月にわたってピースボートに乗船し、世界各地で核廃絶を訴えた。著書「『あの日』ピカドンが」（文芸社）。

## 【しらいみちよさんについて】

◎震災犠牲者の鎮魂の桜の植樹などに取り組むシンガーソングライター



今年初めて実施されたアースデイ東京での、SDGs ハッピーアースパレードのために作詞作曲した歌「YES PEACE!」は、とても親しみやすい曲で、しらいさんの全国各地でのコンサートでは、子どもたちと一緒に歌ったりして、会場の共感を呼んでいます。

**しらいみちよ** コーラスグループ「和田弘とマヒナスターズ」の女性ボーカルとして活躍後、自分の音楽を探し求め、旅を続ける。富山県八尾町の祭り『風の盆』との出会いをきっかけに、日本のわび・さびを音や間で表現する独自のジャンル「音風流」を確立する。S.Sピルバーグ率いるドリームワークス制作のアニメ

**SDGs ハッピーアースパレードで「YES PEACE!」を  
披露したしらいみちよさん**

映画「プリンスオブエジプト」のシンガーに選ばれ主題歌を唄うなどの音楽活動の一方で、森の再生、生き物たちの生態系保護にも関わり、阪神淡路大震災や東日本大震災の鎮護の桜の植樹などを続けている。

## 【世界ヒバクシャ展について】

### ◎共感呼ぶ国内外での写真展

世界ヒバクシャ展は、国内外の様々な場所で開催されてきました。核のない世界を目指して力強く生きてきたヒバクシャの姿は、幅広い人たちの共感を読んでおり、特に、台湾で開催された零核時代では、10日間に2万人近い人々が訪れ、若い人たちから「伝えてくれてありがとう」など大きな反響を呼びました。

この夏も、静岡県富士市での「平和のための富士戦争展」に写真が展示され「苦しみから立ち上がって、平和のために前向きに生きてきた被爆者の姿に心打たれます」などの感想が寄せられています。

**世界ヒバクシャ展** 2002年に発足したNPO法人世界ヒバクシャ展は、6人の日本人写真家が撮影した広島・長崎の原爆、核実験、原発事故、ウラン鉱山、劣化ウラン弾などによる世界中のヒバクシャや核汚染の現場の写真展を国内外で開催している。

※世界ヒバクシャ展の写真と写真説明、このリリースの写真データは、必要に応じて、メールでお送りします。 [hibakushaten@gmail.com](mailto:hibakushaten@gmail.com) 080-3558-3369（安在）